



いのち支える

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人

いのち支える自殺対策推進センター

Japan Suicide Countermeasures Promotion Center (JSCP)

令和6年8月20日(火)

令和6年度 青森県 こども・若者の自殺危機対応チーム事業_説明会

こども・若者(特に小中高生)の 自殺関連行動に対応するための視点について

地域連携推進部 学校連携推進担当 松田 芳明

厚生労働大臣指定法人・一般社団法人

いのち支える自殺対策推進センター

Japan Suicide Countermeasures Promotion Center



本日のお話の流れ (20分程度)

1. 小中高校生の自殺の状況

(1) 自殺者数の推移から

(2) 自殺の原因・動機から

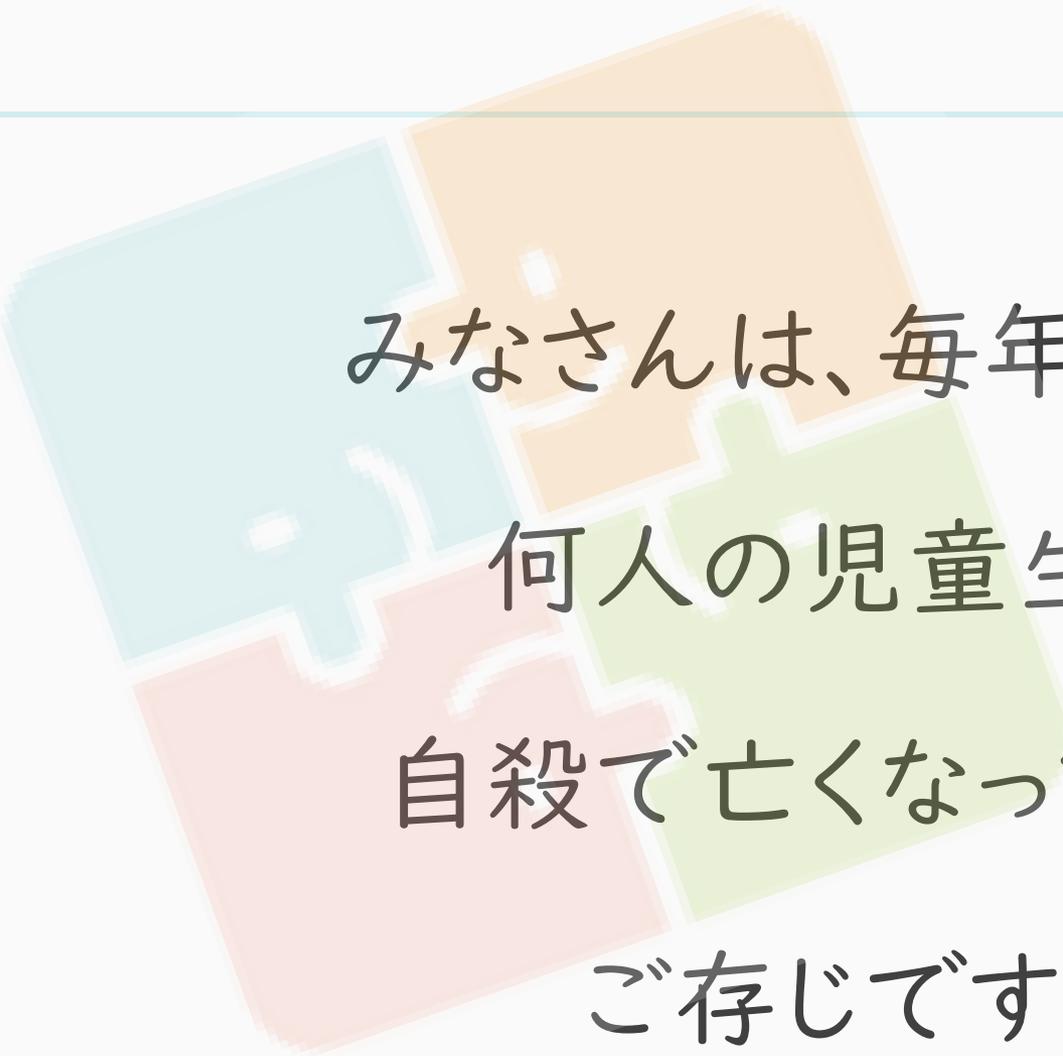
2. 学校が希死念慮を発見しにくい現状

(1) スクールカウンセラーへの相談と自殺の原因・きっかけとの乖離

(2) 「不登校の要因分析に関する調査研究」より

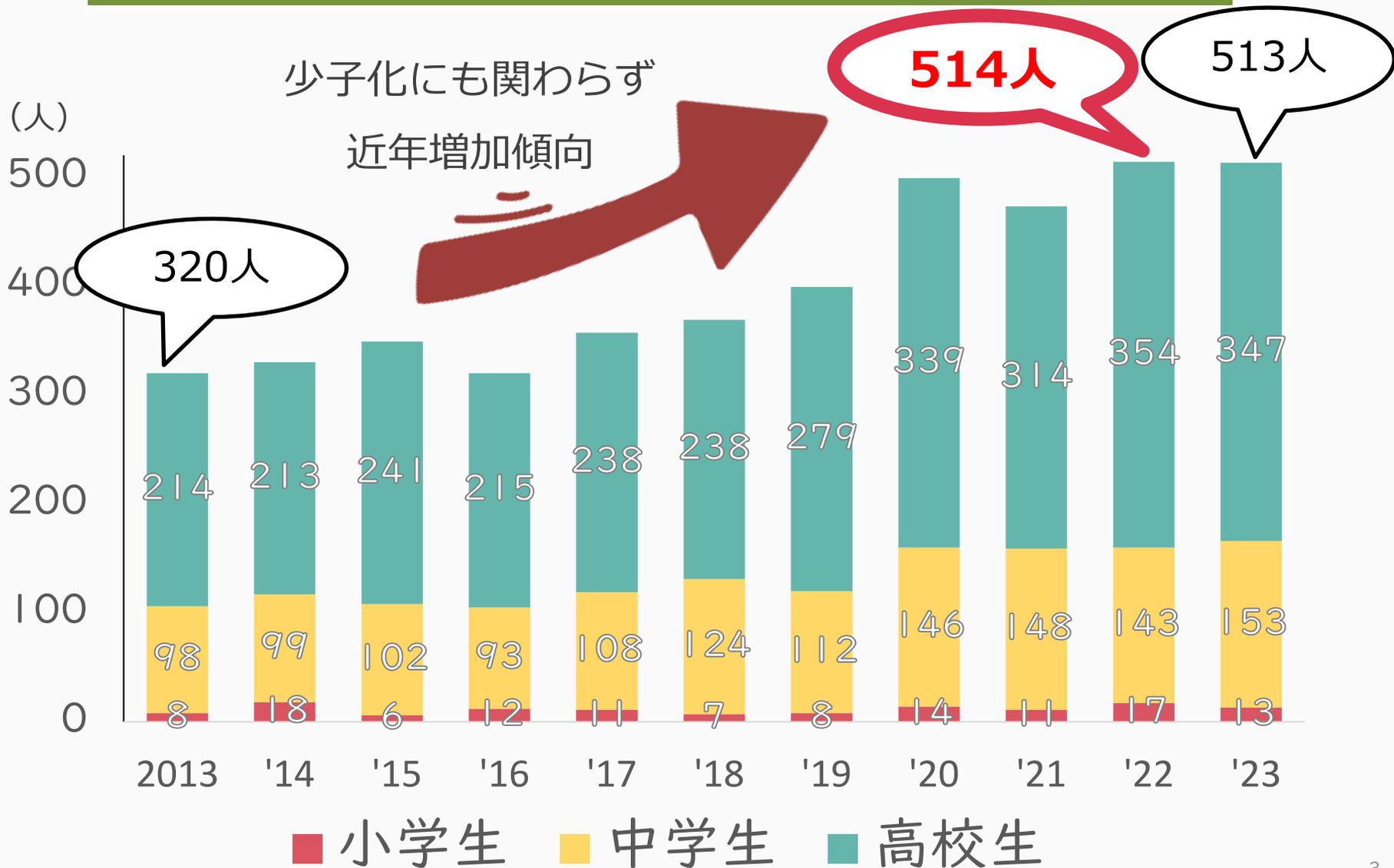
(3) 「こどもの自殺の多角的な要因分析にかかる調査研究」より

3. JSCPより研修等にかかわるお知らせ

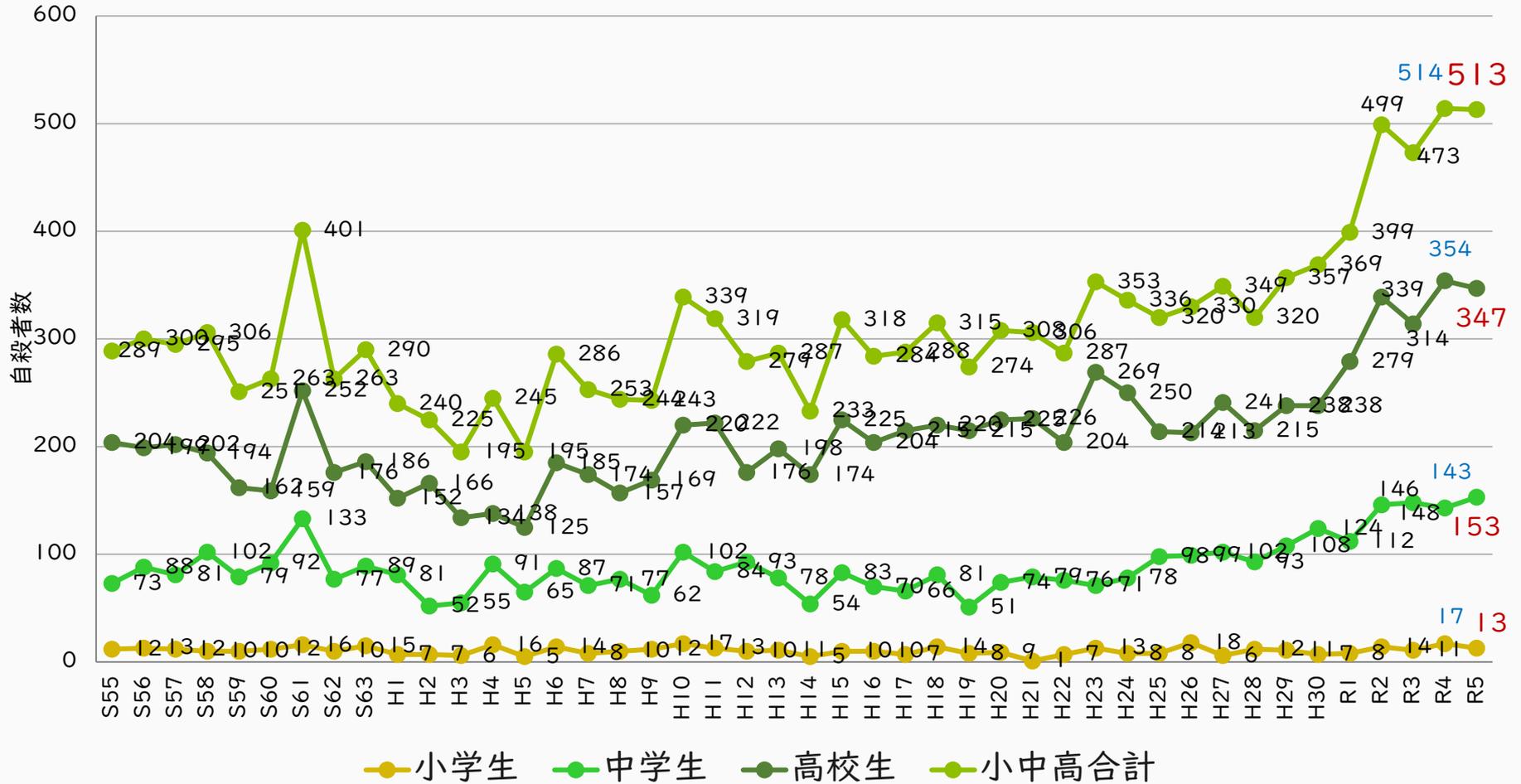


みなさんは、毎年平均して
何人の児童生徒が
自殺で亡くなっているか
ご存じですか？

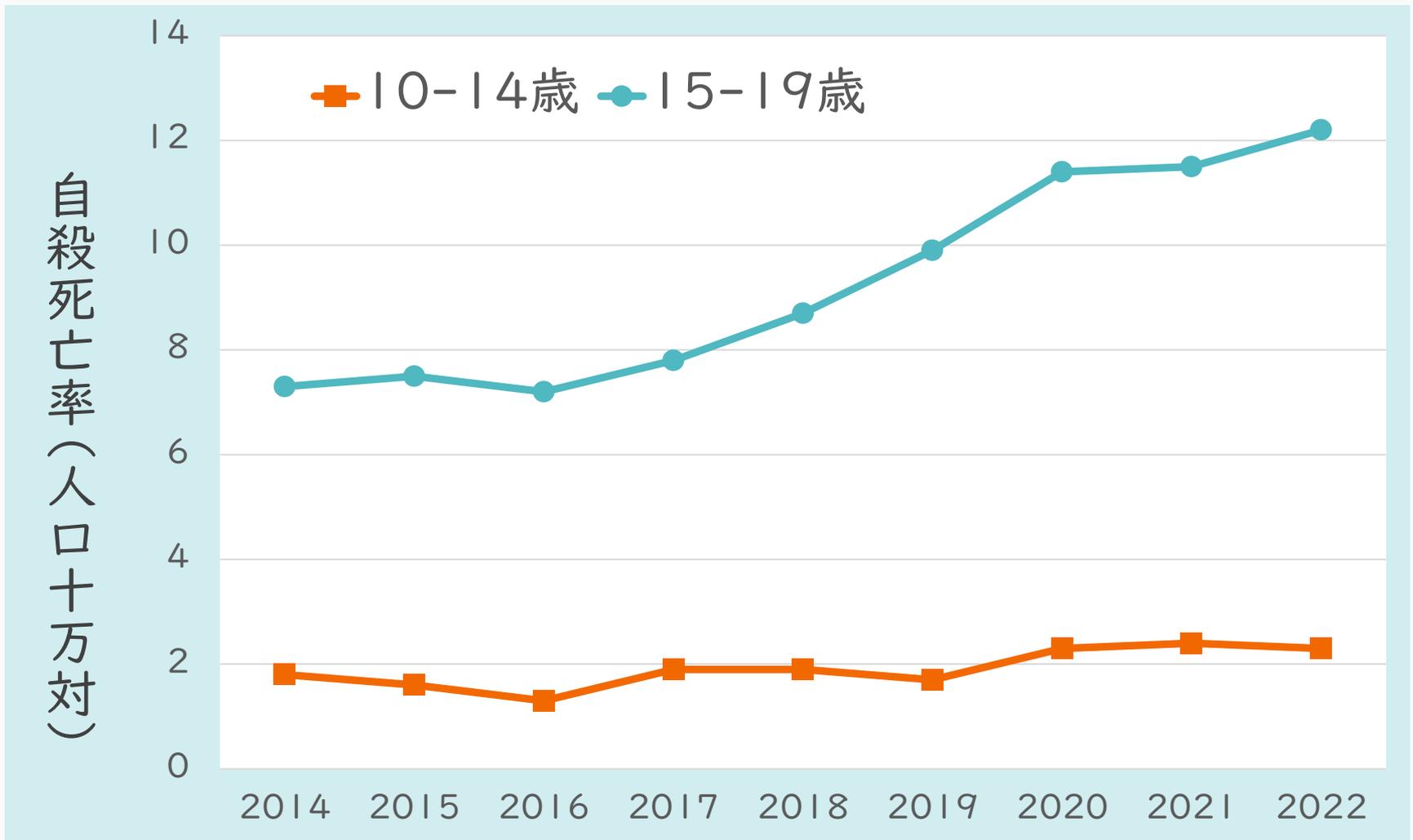
児童生徒の自殺者数



小中高校生の子殺者数の推移【警察庁／自殺統計】



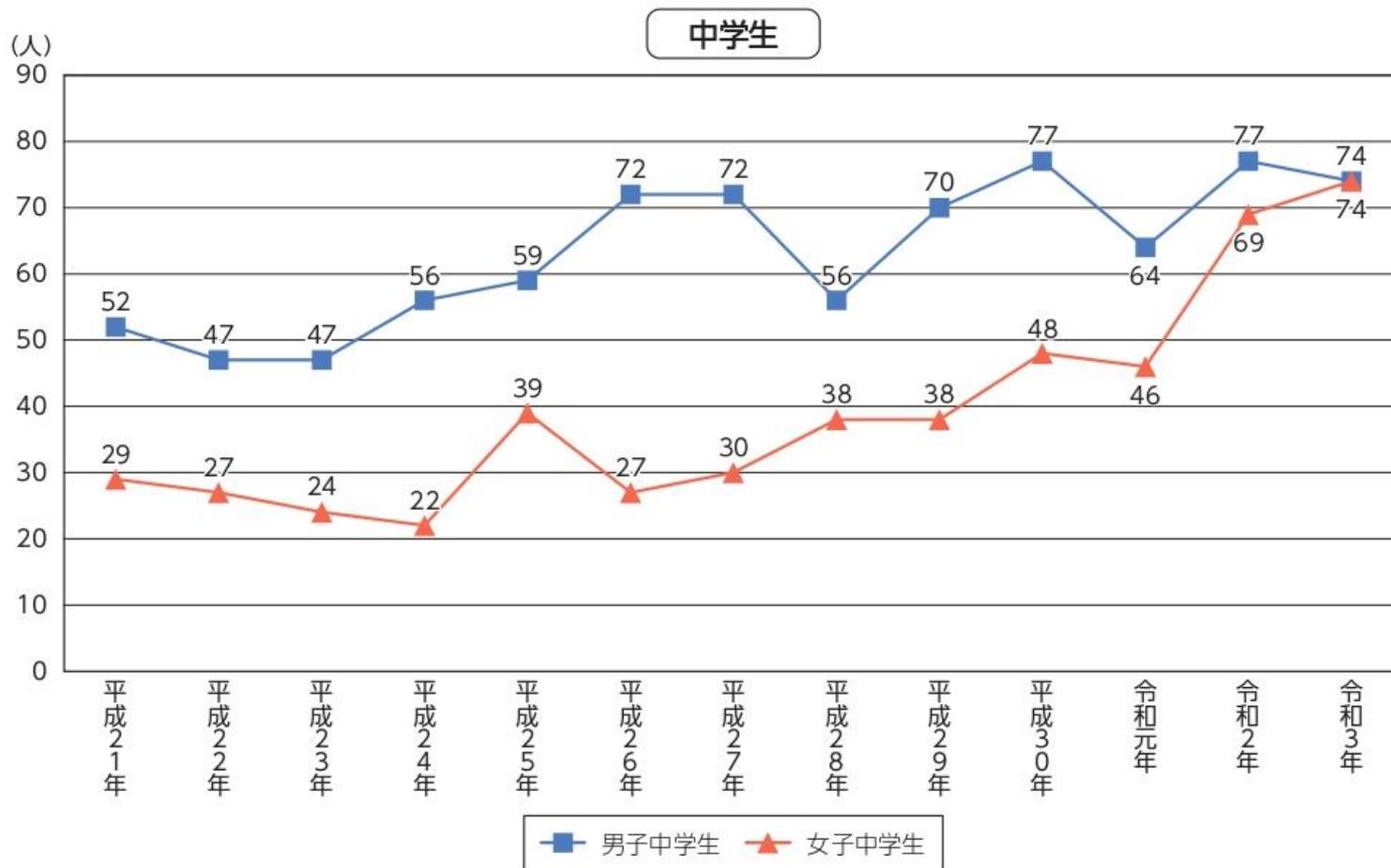
自殺死亡率の推移



人口動態統計よりいのち支える自殺対策推進センター作成

特に女子中学生の自殺増加が顕著

第2-3-6図① 【中学生】生徒の男女別自殺者数の推移



出典：「令和4年版自殺対策白書」（厚生労働省）

年間平均して



小学生

1か月に1人



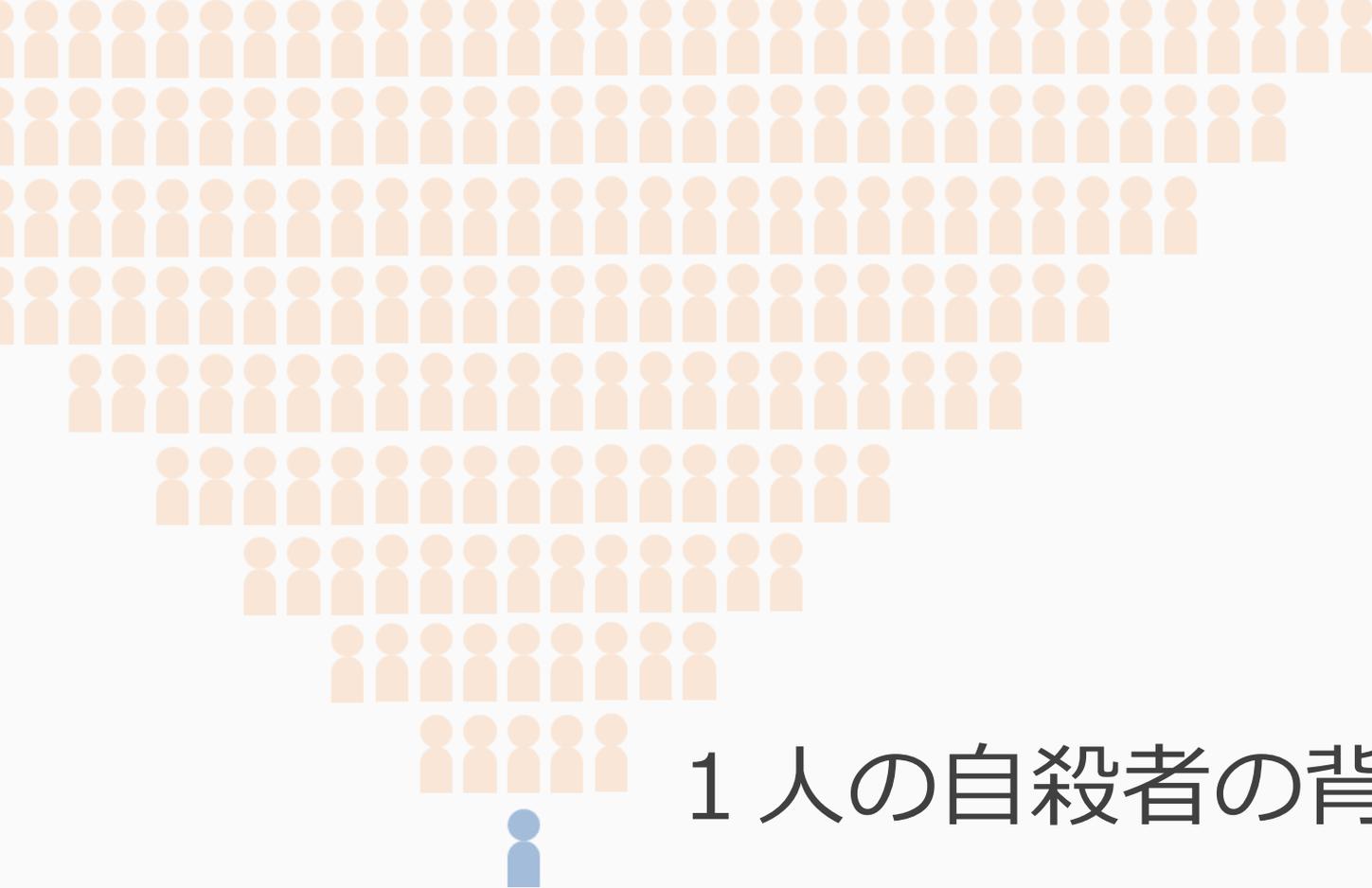
中学生

2日に1人



高校生

1日に1人



1人の自殺者の背後には
もっと多くの自殺**未遂**者や
誰にも相談できずに
苦しんでいる人がいる

小学5・6年生の**16%**、

中学生の**13%**が

「直近1週間に自傷を行った」と答えており、
数%は毎日自傷をしている。

「まだ小学生・中学生だし、関係ない」
とは限らない。

国立成育医療センター,2023,
「新型コロナウイルス感染症流行による親子の生活と健康への影響に関する実態調査報告書」
松本 俊彦, 2023, 『「助けて」が言えない 子ども編』より、一部抜粋

10代の死因第1位は自殺

- 10～14/15～19歳の死因第1位は「**自殺**」
- 毎日平均2人以上が自殺で亡くなっている

第1-11表 令和3年の死因順位別にみた年齢階級及び性別の死亡者数、死亡率²、構成割合

総数

年齢階級	第1位					第2位					第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)		
10～14歳	自殺	128	2.4	29.0	悪性新生物<腫瘍>	82	1.5	18.6	不慮の事故	52	1.0	11.8		
15～19歳	自殺	632	11.5	52.5	不慮の事故	162	2.9	13.5	悪性新生物<腫瘍>	126	2.3	10.5		
20～24歳	自殺	1,285	21.8	58.9	不慮の事故	239	4.1	10.9	悪性新生物<腫瘍>	157	2.7	7.2		
25～29歳	自殺	1,241	20.9	53.4	悪性新生物<腫瘍>	225	3.8	9.7	不慮の事故	201	3.4	8.7		
30～34歳	自殺	1,180	19.0	41.2	悪性新生物<腫瘍>	517	8.3	18.1	心疾患(高血圧性を除く)	197	3.2	6.9		
35～39歳	自殺	1,297	18.3	30.2	悪性新生物<腫瘍>	946	13.4	22.0	心疾患(高血圧性を除く)	377	5.3	8.8		
40～44歳	悪性新生物<腫瘍>	2,037	25.6	28.5	自殺	1,527	19.2	21.3	心疾患(高血圧性を除く)	757	9.5	10.6		
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	4,296	45.0	31.4	自殺	1,945	20.4	14.2	心疾患(高血圧性を除く)	1,693	17.7	12.4		
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	7,445	82.0	35.5	心疾患(高血圧性を除く)	2,797	30.8	13.4	自殺	1,852	20.4	8.8		
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	11,365	147.8	40.9	心疾患(高血圧性を除く)	3,544	46.1	12.8	脳血管疾患	1,996	26.0	7.2		
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	17,660	242.0	44.0	心疾患(高血圧性を除く)	5,122	70.2	12.8	脳血管疾患	2,645	36.2	6.6		

出典:「令和5年版自殺対策白書」(厚生労働省)



厚生労働大臣指定法人・一般社団法人

いのち支える自殺対策推進センター

Japan Suicide Countermeasures Promotion Center (JSCP)

いのち支える

自殺の原因・動機と そこから見える関係機関

令和5年自殺の原因・動機【警察庁／自殺統計】

令和5年		家庭 問題	健康 問題	経済・ 生活 問題	勤務 問題	交際 問題	学校 問題	その他	不詳
小学生	総計	6	1	0	0	0	3	4	3
	男性	1	0	0	0	0	2	2	2
	女性	5	1	0	0	0	1	2	1
中学生	総計	46	26	1	0	4	92	19	24
	男性	23	10	1	0	3	43	9	8
	女性	23	16	0	0	1	49	10	16
高校生	総計	64	120	4	4	29	166	36	61
	男性	37	53	2	2	7	109	21	26
	女性	27	67	2	2	22	57	15	35
合計	総計	116	147	5	4	33	261	59	88
	男性	61	63	3	2	10	154	32	36
	女性	55	84	2	2	23	107	27	52

学校問題を原因・動機とする自殺者数【R5_警察庁／自殺統計】

令和5年		学校問題							学校問題 その他
		学業不振	入試に 関する悩み	進路に関する悩み (入試以外)	いじめ	学友との 不和 (いじめ以外)	教師との 人間関係	性別による 差別	
小学生	総計	1	0	0	0	1	0	0	1
	男性	1	0	0	0	0	0	0	1
	女性	0	0	0	0	1	0	0	0
中学生	総計	28	12	12	1	20	2	0	17
	男性	15	7	7	0	5	0	0	9
	女性	13	5	5	1	15	2	0	8
高校生	総計	36	24	41	0	27	4	1	33
	男性	22	18	29	0	16	3	0	21
	女性	14	6	12	0	11	1	1	12
合計	総計	65	36	53	1	48	6	1	51
	男性	38	25	36	0	21	3	0	31
	女性	27	11	17	1	27	3	1	20

自殺の「学校問題にかかる原因・動機」

- ◆学業不振
- ◆進路に関する悩み
(入試以外)
- ◆学友との不和
(いじめ以外)

＜連携が必要な機関＞
 特別支援教育所管課
 教育相談室
 生活困窮支援担当

健康問題を原因・動機とする自殺者数【R5_警察庁／自殺統計】

[~19歳]

	自殺者数	健康問題総計	病気の悩み（悪性新生物）	病気の悩み（てんかん）	病気の悩み（その他の身体の病気）	病気の悩み・影響（うつ病）	病気の悩み・影響（統合失調症）	病気の悩み・影響（アルコール依存症）	病気の悩み・影響（薬物乱用）	病気の悩み・影響（摂食障害）	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	身体障害の悩み	健康問題その他
計	981	263	1	3	22	88	20	1	1	5	107	4	11
男	520	103	1	2	14	24	10	0	0	0	47	1	4
女	461	160	0	1	8	63	10	1	1	5	60	3	7

自殺の「健康問題にかかる原因・動機」

- ◆病気の悩み・影響（その他の精神疾患）
- ◆病気の悩み・影響（うつ病）

＜連携が必要な機関＞
保健所/保健師

家庭問題を原因・動機とする自殺者数【R5_警察庁／自殺統計】

[～19歳]

	自殺者数	家庭問題総計	親子関係の不和	その他の家族関係の不和	家族の死亡	家族の将来悲観	介護・看病疲れ	家族からのしつけ・叱責	家族・同居人からの身体的虐待	家族・同居人からの心理的虐待	家族・同居人からの性的虐待	家族・同居人からのネグレクト	家族問題その他
計	981	155	61	20	4	11	0	49	0	0	0	1	8
男	520	82	30	9	2	8	0	25	0	0	0	0	7
女	461	73	31	11	2	3	0	24	0	0	0	1	1

自殺の「家庭問題にかかる原因・動機」

- ◆親子関係の不和
- ◆家族からのしつけ・叱責
- ◆その他の家族関係の不和

<連携が必要な機関>
要保護児童対策地域協議会

経済・生活問題、勤務問題を原因・動機とする自殺者数

【R5_警察庁／自殺統計】

[~19歳]

	自殺者数	経済・生活問題総計	事業不振	失業	倒産	就職失敗	生活苦	負債(多重債務)	負債(連帯保証債務)	負債(ギャンブル他)	負債(その他)	借金の取り立て苦	奨学金返済苦	自殺による保険金支給	経済・生活問題その他
計	981	32	0	0	0	9	10	1	0	0	7	0	1	0	6
男	520	19	0	0	0	7	3	1	0	0	4	0	0	0	5
女	461	13	0	0	0	2	7	0	0	0	3	0	1	0	1

	自殺者数	勤務問題総計	職場の人間関係(上司とのトラブル)	職場の人間関係(その他)	職場環境の変化(役割・地位の変化等)	職場環境の変化(その他)	仕事疲れ(長時間労働)	仕事疲れ(その他)	解雇・雇止め	取引先とのトラブル	仕事の失敗	過重なノルマ・ノルマの不達成	性別による差別	勤務問題その他
計	981	29	6	6	0	3	0	7	0	0	2	0	0	5
男	520	23	6	3	0	2	0	6	0	0	2	0	0	4
女	461	6	0	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1

自殺の「経済・生活・勤務問題にかかる原因・動機」

- ◆生活苦、就職失敗、負債
- ◆職場の人間関係
- ◆仕事疲れ(その他)

＜連携が必要な機関＞
生活困窮者支援担当

交際問題、その他の問題を原因・動機とする自殺者数

【R5_警察庁／自殺統計】

[~19歳]

	自殺者数	交際問題 総計	失恋	不倫・ 浮気	結婚に 関する 悩み	交際相手からの暴 力 (DV被害)	ストーカ ー行為等	交際問題 その他
計	981	70	45	3	0	0	0	22
男	520	29	20	1	0	0	0	8
女	461	41	25	2	0	0	0	14

	自殺者数	その他 問題総 計	犯罪 被害	犯罪 発覚 等	SNS・イ ンター ネット上 のトラブ ル	性的少 数者で あるこ との悩 み・被 差別	孤独感	近隣と の関係	後追い 自殺	家族・同 居人・交 際相手以 外からの 虐待・暴 力被害	その他 問題 その他	不詳
計	981	106	1	12	6	8	23	0	6	1	49	-
男	520	63	0	10	5	2	11	0	4	1	29	-
女	461	43	1	2	1	0	12	0	2	0	20	-

自殺の「交際問題・その他にかかる原因・動機」

- ◆失恋
- ◆孤独感
- ◆犯罪発覚等

<連携が必要な機関>
教育相談室・思春期相談
少年センター



厚生労働大臣指定法人・一般社団法人

いのち支える自殺対策推進センター

Japan Suicide Countermeasures Promotion Center (JSCP)

いのち支える

スクールカウンセラーへの相談と 自殺の原因・きっかけとの乖離

スクールカウンセラー相談事業より（相談件内容・件数）

出典：スクールカウンセラー相談事業説明資料より

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
不登校	680,441	687,948	655,972	676,882	770,692	797,770	831,381	850,161	868,473	914,300
いじめ	35,887	40,462	36,642	34,458	34,762	38,317	39,743	40,228	27,701	28,733
暴力行為	41,374	44,474	11,382	10,561	11,334	25,890	24,049	23,166	18,984	15,601
児童虐待	-	-	-	17,671	19,165	21,289	25,667	27,764	27,731	29,448
友人関係	-	227,046	223,570	250,519	298,047	303,913	321,538	330,447	265,587	292,493
貧困の問題	-	-	-	-	1,580	3,753	4,565	3,851	2,975	2,654
ヤングケアラー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,091
非行・不良行為	-	-	-	23,743	39,241	48,785	46,969	30,022	22,809	25,157
家庭環境	-	175,859	176,097	215,082	269,240	286,706	283,031	291,652	323,247	319,258
教員との関係	-	-	-	33,978	40,738	53,001	56,232	56,171	53,148	56,497
心身の健康・保健	-	-	-	119,203	198,985	271,991	308,133	444,655	537,712	599,322
学業・進路	-	149,418	164,750	187,402	209,722	225,727	231,394	239,945	237,521	238,716
発達障害等	-	-	-	255,193	335,096	386,462	396,563	402,346	383,508	402,488
その他	1,796,660	1,636,131	1,587,021	1,159,621	1,122,484	1,046,643	941,015	814,508	723,934	754,559
合計	2,554,362	2,961,338	2,855,434	2,984,313	3,351,086	3,510,247	3,510,280	3,554,916	3,493,330	3,683,317
内) 性的な被害	-	-	-	-	1,881	4,500	4,473	4,664	5,018	5,645

スクールカウンセラー相談事業より（相談内容・比率）

出典：スクールカウンセラー相談事業説明資料より

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平均
不登校	26.6%	23.2%	23.0%	22.7%	23.0%	22.7%	23.7%	23.9%	24.9%	24.8%	23.9%
いじめ	1.4%	1.4%	1.3%	1.2%	1.0%	1.1%	1.1%	1.1%	0.8%	0.8%	1.1%
暴力行為	1.6%	1.5%	0.4%	0.4%	0.3%	0.7%	0.7%	0.7%	0.5%	0.4%	0.7%
児童虐待	-	-	-	0.6%	0.6%	0.6%	0.7%	0.8%	0.8%	0.8%	0.7%
友人関係	-	7.7%	7.8%	8.4%	8.9%	8.7%	9.2%	9.3%	7.6%	7.9%	8.4%
貧困の問題	-	-	-	-	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
ヤングケアラー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1%	0.1%
非行・不良行為	-	-	-	0.8%	1.2%	1.4%	1.3%	0.8%	0.7%	0.7%	1.0%
家庭環境	-	5.9%	6.2%	7.2%	8.0%	8.2%	8.1%	8.2%	9.3%	8.7%	7.7%
教員との関係	-	-	-	1.1%	1.2%	1.5%	1.6%	1.6%	1.5%	1.5%	1.4%
心身の健康・保健	-	-	-	4.0%	5.9%	7.7%	8.8%	12.5%	15.4%	16.3%	10.1%
学業・進路	-	5.0%	5.8%	6.3%	6.3%	6.4%	6.6%	6.7%	6.8%	6.5%	6.3%
発達障害等	-	-	-	8.6%	10.0%	11.0%	11.3%	11.3%	11.0%	10.9%	10.6%
その他	70.3%	55.2%	55.6%	38.9%	33.5%	29.8%	26.8%	22.9%	20.7%	20.5%	37.4%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.0%
内) 性的な被害	-	-	-	-	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%

スクールカウンセラー相談件数と自殺件数

令和5年自殺の原因・動機【警察庁／自殺統計】

出典：スクールカウンセラー相談事業説明資料より

令和5年		家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	不詳
小学生	総計	6	1	0	0	0	3	4	3
	男性	1	0	0	0	0	2	2	2
	女性	5	1	0	0	0	1	2	1
中学生	総計	46	26	1	0	4	92	19	24
	男性	23	10	1	0	3	43	9	8
	女性	23	16	0	0	1	49	10	16
高校生	総計	64	120	4	4	29	166	36	61
	男性	37	53	2	2	7	109	21	26
	女性	27	67	2	2	22	57	15	35
合計	総計	116	147	5	4	33	261	59	88
	男性	61	63	3	2	10	154	32	36
	女性	55	84	2	2	23	107	27	52

[動機は複数選択による]

- ◆ 学校問題は、相談件数も多いが、一定の成果を上げていると推測
- ◆ 家庭問題、健康問題等は、スクールカウンセラーにも相談しにくいのか？

	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	不詳
自殺件数	16.3%	20.6%	0.7%	0.6%	4.6%	36.6%	8.3%	12.3%
SC相談件数	8.6%	10.1%	0.1%	-	?	53.4%	37.4%	-

スクールカウンセラー相談件数と自殺件数

学校問題を原因・動機とする自殺者数【R5_警察庁/自殺統計】

出典：スクールカウンセラー相談事業説明資料より

令和5年	学校問題							
	学業不振	入試に関する悩み	進路に関する悩み (入試以外)	いじめ	学友との不和 (いじめ以外)	教師との人間関係	性別による差別	学校問題その他
小学生	総計	1	0	0	0	1	0	0
	男性	1	0	0	0	0	0	0
	女性	0	0	0	0	1	0	0
中学生	総計	28	12	12	1	20	2	17
	男性	15	7	7	0	9	0	9
	女性	13	5	5	1	15	2	8
高校生	総計	36	24	41	0	27	4	33
	男性	22	18	29	0	16	3	21
	女性	14	6	12	0	11	1	12
合計	総計	65	36	53	1	48	6	51
	男性	38	25	36	0	21	3	31
	女性	27	11	17	1	27	3	20

- ◆ 学校問題の中でも、学業不振等はSCには相談しにくい内容で、担任との相談にならざるを得ないのか？
⇒相談件数自体が少ない
- ◆ 学友との不和についても、相談しにくいのか？

自殺の「学校問題にかかる原因・動機」

- ◆学業不振
- ◆進路に関する悩み
(入試以外)
- ◆学友との不和
(いじめ以外)

<連携が必要な機関>
特別支援教育所管課
教育相談室
生活困窮支援担当

	不登校	学業不振	入試に関する悩み (入試以外)	進路に関する悩み (入試以外)	いじめ	学友との不和 (いじめ以外)	教師との人間関係	性別による差別	学校問題その他	発達障害等
自殺件数		24.9%	13.8%	20.3%	0.4%	18.4%	2.3%	0.4%	19.5%	
		59.0%								
相談件数	44.7%		11.7%		2.1%	15.7%	11.7%			19.8%
		発達障害等		19.8%						
		不登校		44.7%						
		76.3%								



厚生労働大臣指定法人・一般社団法人

いのち支える自殺対策推進センター

Japan Suicide Countermeasures Promotion Center (JSCP)

いのち支える

教職員と児童生徒& 保護者との乖離

不登校の要因分析に 関する調査研究から の考察

文部科学省委託事業

不登校の要因分析に関する調査研究

報告書

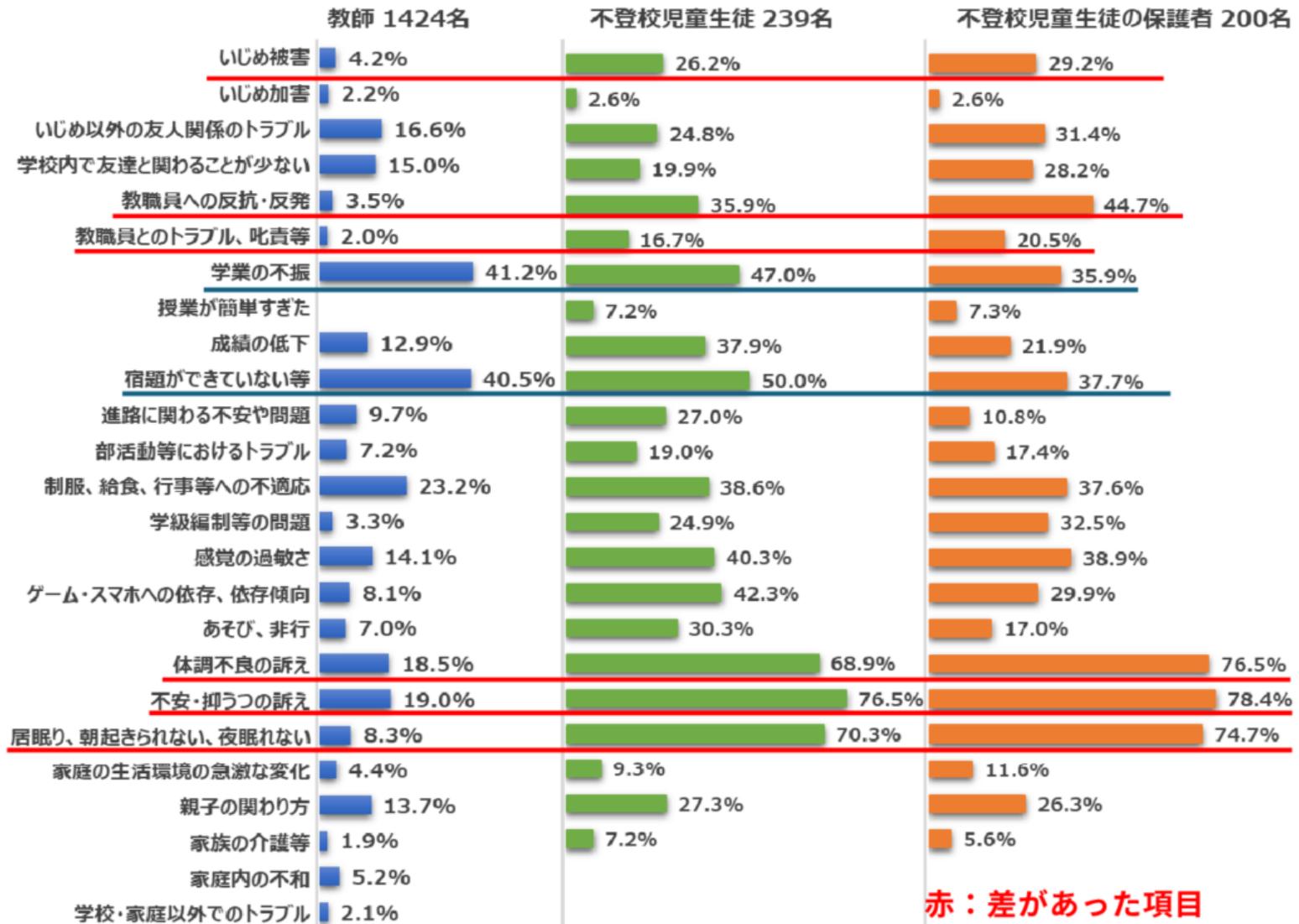
令和6年3月公表

公益社団法人 子どもの発達科学研究所

浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター

文部科学省委託事業不登校の要因分析に関する調査研究より

きっかけ要因に関する教師・児童生徒・保護者の回答の比較



赤：差があった項目
青：概ね一致した項目

相談・指導等を受けていないと報告された 不登校の児童生徒の状況

【教師の回答】

きっかけ要因	相談・指導を受けた 児童生徒	相談・指導を受けて いない児童生徒	違い (オッズ比)
いじめ被害	4.4%	3.9%	0.89
いじめ加害	1.6%	3.2%	2.05
友人関係のトラブル	16.2%	17.2%	1.07
友達と関わるのが少ない	14.8%	15.4%	1.05
教職員への反抗・反発	2.9%	4.5%	1.56
教職員とのトラブル、叱責等	1.6%	2.8%	1.80
学業の不振	38.0%	46.3%	1.40*
成績の低下	11.6%	15.0%	1.34
宿題ができていない等	35.7%	48.5%	1.69*
進路に関わる不安や問題	11.0%	7.3%	0.63
部活動等におけるトラブル	6.5%	8.4%	1.32
制服、給食、行事等への不応	23.0%	23.8%	1.04
入学、転編入学、進級時の不応	3.3%	3.4%	1.03
ゲーム・スマホ依存、依存傾向	8.7%	7.3%	0.83
あそび、非行	6.5%	7.7%	1.19
体調不良の訴え	16.9%	21.2%	1.32
不安・抑うつ等の訴え	20.4%	16.7%	0.78
学校での居眠り等	7.2%	10.1%	1.45
家庭の生活環境の急激な変化	4.1%	5.1%	1.26
親子の関わり方	13.6%	13.9%	1.02
家庭内の不和	4.8%	5.8%	1.21
学校・家庭以外でのトラブル	2.1%	2.1%	0.96

参 考

令和5年度こども家庭庁委託事業

こどもの自殺の多角的な要因分析に関する調査研究報告書

【概要版】

2024年5月

いのち支える自殺対策推進センター

Japan Suicide Countermeasures Promotion Center

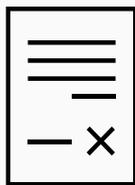
令和5年度「こどもの自殺の多角的な要因分析に関する調査研究」概要 ①方法

- 警察や消防、学校や教育委員会、地方自治体等が保有する自殺に関する統計及びその関連資料を集約し、多角的な分析を行い、EBPMの視点も踏まえ、①こどもの自殺の実態解明に取り組むとともに、②分析に当たっての課題把握に取り組むことを目的として、一般社団法人いのち支える自殺対策推進センターが、こども家庭庁の委託により、令和5年12月～令和6年3月に実施。
- 学識経験者や実務者等の助言を得て、調査を取りまとめ。

＜助言者＞ 生越 照幸 弁護士法人ライフパートナー法律事務所代表
 竹原 健二 国立研究開発法人国立成育医療研究センター政策科学研究部部長
 原田 謙 地方独立行政法人長野県立病院機構 長野県立こころの医療センター駒ヶ根子どものこころ診療センター長

1. 資料・データの収集及び分析

- 都道府県教育委員会等が保有する事件等報告書等について、過去5年分の提供を依頼した結果、**272件の報告書等を収集**。
- 下記の項目について、複数の分析者により報告書等の記載の有無を読み取り、集計・整理を行った。
- ➔ 今回収集した報告書等の多くには個々のケースの自殺の要因を特定するまでの情報が含まれていないことから、**自殺の要因・動機に関する考察を行うことは適切ではないと判断し**、報告書等に記載された情報を客観的に整理するとどめている。



事件等
報告書等
(272件)

情報抽出

基本情報 提供された報告書等の種類 自殺年 性別 自殺時の学年 自殺時の年齢	家庭 関連情報 家族・同居人からの虐待 家族からのしつけ・叱責 親子関係の不和 その他家族関係の不和 家族の死亡 家族の病気 経済問題 その他				
		生前に置かれていた 状況 家庭関連情報 健康関連情報 学校関連情報 その他の情報	健康 関連情報 うつ病 統合失調症 神経発達症 その他の精神疾患 身体疾患・障害 その他		
				生前の自殺関連行動等 自傷・自殺未遂歴 希死念慮・自殺念慮 自殺の危機（周囲に気付かれていたか）	学校 関連情報 学業不振 入試の悩み 進路の悩み いじめ 学友との不和 教師との人間関係 不登校 定時制・通信制（高校） その他
		自殺後の状況 遺書 原因・動機に関する言及 自殺後の第一発見者			

- 警察庁からは自殺統計原票を、消防庁からは救急搬送人員データの提供を受けた。CDR（予防のためのこどもの死亡検証：Child Death Review）モデル事業実施自治体が保有するCDR関連資料についても、実施自治体全てに提供を依頼したが、収集には至らなかった。

令和5年度「こどもの自殺の多角的な要因分析に関する調査研究」概要 ②結果

○教育委員会の事件等報告書等の集計・整理結果

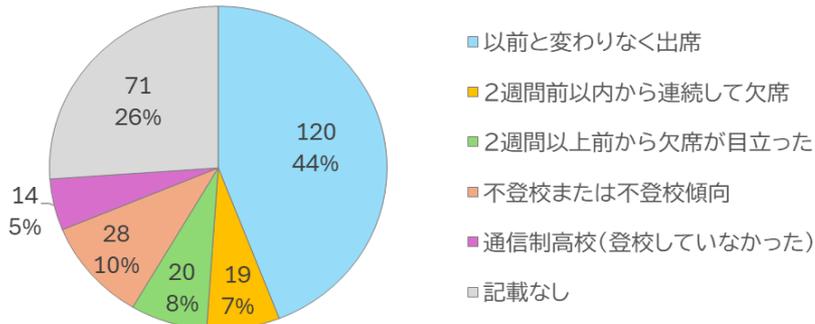
272名、363通の報告書等（事件等報告書241通、基本調査結果121通、詳細調査報告書1通）を対象に分析

本調査研究では下記の項目が自殺と関連があったか否かの判定は行っておらず、**下記の例に該当することが自殺の要因となることを示唆しているものではない。**

■生前に置かれていた状況 (n=272) ※1つの自殺事例について、各カテゴリーの中でも、複数項目に該当している場合がある

家庭 関連情報	<ul style="list-style-type: none"> ○ 該当者の割合が10%以上であった項目は、「その他」(101名; 37%)、「親子関係の不和」(46名; 17%)であった。「家族からのしつけ・叱責」(23名; 8%)、「その他家族関係の不和」(23名; 8%)、「経済問題」(22名; 8%)の該当が多かった。
健康 関連情報	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「その他」(76名; 28%)、「神経発達症」(27名; 10%)について、該当者の割合が10%以上となっていた。続いて、「身体疾患・障害」(25名; 9%)、「その他の精神疾患」(20名; 7%)の該当が多かった。「その他」の内訳では、不定愁訴(頭痛、腹痛、体調不良、不眠、情緒不安定など)が最多で、53名が該当した。
学校 関連情報	<ul style="list-style-type: none"> ○ 該当者の割合が10%以上であった項目は、「その他」(60名; 22%)、「学業不振」(47名; 17%)、「学友との不和」(39名; 14%)、「定時制・通信制(高校)」(37名; 14%)、「不登校」(32名; 12%)であった。「その他」の内訳では、部活動の問題が最多で17名が該当した。

■学校の出席状況 (n=272)



■周囲の気づき (n=272)



【家庭関連情報】のうち、
該当者の割合が10%以上であった項目
「その他」（101名；37%）
「親子関係の不和」（46名；17%）
続いて、
「家族からのしつけ・叱責」（23名；8%）
「その他家族関係の不和」（23名；8%）
「経済問題」（22名；8%）
の該当が多かった。

【健康関連情報】では、
該当者の割合が10%以上であった項目
「その他」（76名；28%）
「神経発達症」（27名；10%）
続いて、
「身体疾患・障害」（25名；9%）
「その他の精神疾患」（20名；7%）
の該当が多かった。

「その他」の内訳では、
不定愁訴（頭痛、腹痛、体調不良、不眠、情緒不安定など）が最多で、53名が該当した。

【学校関連情報】のうち
該当者の割合が10%以上であった項目
「その他」（60名；22%）
「学業不振」（47名；17%）
「学友との不和」（39名；14%）
「定時制・通信制（高校）」（37名；14%）
「不登校」（32名；12%）
であった。

「その他」の内訳では、
部活動の問題が最多で17名が該当した。

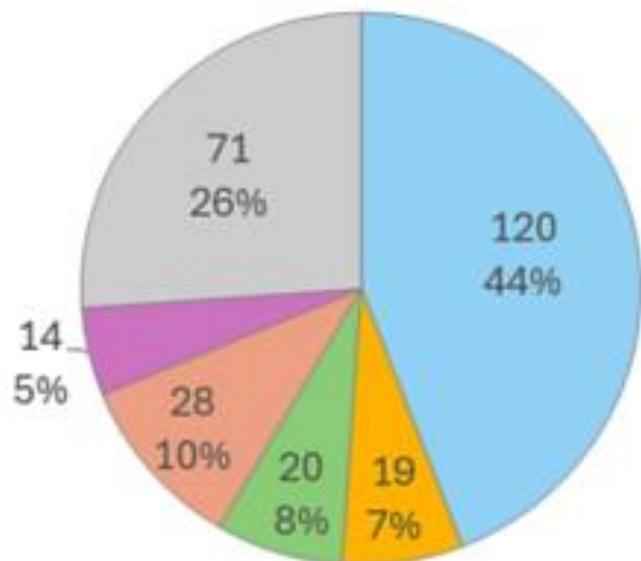
なお、本調査研究ではこれらの項目が自殺と関連があったか否かの判定は行っておらず、下記の例に該当することが自殺の要因となることを示唆していることではないことを申し添える。

【学校関連情報】に関連して、
学校の出席状況について、より詳細に分類・集計してみたところ、120名（分析対象者中の44%、「記載なし」の71名を除いた中では60%）が、
自殺の直前も以前と変わりなく出席していた。

【その他の情報】では
「その他」が最多で、中でも犯罪・非行が最も多く、12名が該当した。

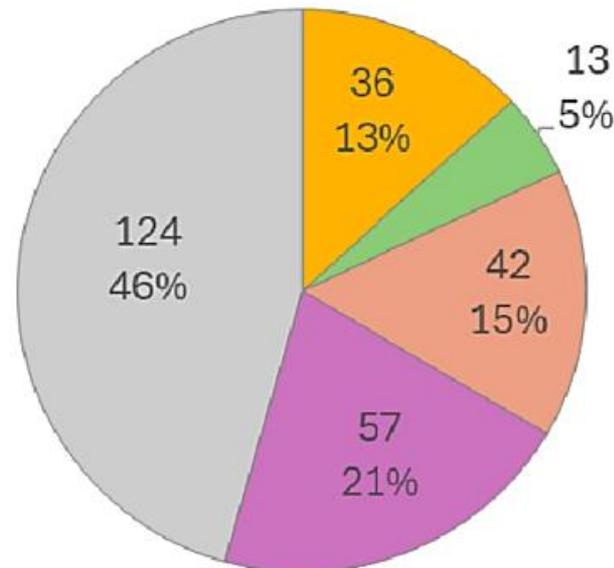
※ 本調査研究ではこれらの項目が自殺と関連があったか否かの判定は行っておらず、学校の出欠状況が自殺の要因となることを示唆しているものではない。

【学校での出席状況】



- 以前と変わりなく出席
- 2週間前以内から連続して欠席
- 2週間以上前から欠席が目立った
- 不登校または不登校傾向
- 通信制高校(登校していなかった)
- 記載なし

【周囲の気づき】



- 自殺の危機を気付かれていた(保護者または学校)
- 自殺の危機を気付かれていた(友人ほか)
- 何らかの変化は気付かれていた
- 自殺の危機も変化も気付かれていなかった
- 記載なし



厚生労働大臣指定法人・一般社団法人

いのち支える自殺対策推進センター

Japan Suicide Countermeasures Promotion Center (JSCP)

いのち支える

JSCPより、先生方の研修 に関するお知らせ

学校・教育機関向け資料集

[#学校](#)[#教育機関](#)[#子ども・若者への対策](#)[#自殺予防教育](#)[#SOSの出し方に関する教育](#)[#文部科学省資料](#)

このページは、学校や教育委員会に向けて自殺対応に関わる資料や動画コンテンツを集めています。

随時、新規情報を取り入れ更新してく予定です。

文部科学省により「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」（平成21年3月）が発行されてから10年以上経過し、こどもたちの自殺に関わる状況はどうかというと、減少するどころか、令和4年には小中高校生の自殺者数が514名にも達する状況となり、令和5年にも513名と高止まりしています。

令和5年には、こども家庭庁が「こどもの自殺対策緊急強化プラン」を取りまとめ、文部科学省も、1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の導入および「SOSの出し方に関する教育」を含めた自殺予防教育を一層推進し、厚生労働省が「こども・若者の自殺危機対応チーム事業」を開始しました。こども・若者の自殺対策について、学校と連携した取組を、一層強化しているところです。

ぜひ、各自治体、学校でこのサイトをご活用いただき、自殺対策に関する情報を収集いただきますとともに、このようにマニュアルを改善してみたなどのお声をお寄せいただき、さらに共有しあうことで、全国の児童生徒の自殺対策の一助となれば幸いです。

学校における自殺関連
対応マニュアル集

『SOSの出し方に関する教育』
を含む自殺予防教育 関連資料

研修用動画
その他

『子供の自殺が起きたときの
背景調査』 関係資料

保護者向け
自殺予防教育に関するコンテンツ集

中高教職員のためのゲートキーパー研修 動画型教材公開のお知らせ

#研修・会議

#ゲートキーパー



JSCPは、中高教職員を対象としたゲートキーパー養成に係る研修プログラムを開発し、独立行政法人教職員支援機構（NITS）の協力のもと、オンデマンド動画配信を実現しました。

令和5年の小中高生の自殺者数は513名と、令和4年（514名）に次ぐ深刻な状況が続いています。学校教職員においては、子どもたちの身近な存在として、こどものSOSのサインに気づき、寄り添い、適切に支援につなぐ「ゲートキーパー」としての役割がますます期待されます。

こうした背景を受け、これまでJSCPでは、中高教職員向けのゲートキーパー養成に係る研修プログラムを開発し、オンラインまたは対面で自治体等へ研修をご提供してまいりました。一方、講師の数や時間的な制約などから、必ずしもすべての要望に応えることはできませんでした。またやむを得ない理由で当日欠席をした方が後日に研修を受けられないなど、リアルタイム形式による研修開催の限界もありました。

今回、NITSの協力のもと、JSCPの研修プログラムを、誰もが場所や時間の制約なく、自由に学ぶことができる動画教材とすることができました。ぜひ皆様にご活用のうえ、ご意見をいただき、さらに良いものへとしていく所存です。

研修プログラム

本研修は、希死念慮のある児童生徒からのSOSのサインに気づき、寄り添い、適切な支援に繋ぐためのコツを、ケース・スタディを通して分かりやすく学ぶことができます。なお、研修プログラムは、自殺対策の専門家、小児科専門医、教育の専門家等の知識や経験をもとに開発しました。

研修プログラム

本研修は、希死念慮のある児童生徒からのSOSのサインに気づき、寄り添い、適切な支援に繋ぐためのコツを、ケース・スタディを通して分かりやすく学ぶことができます。なお、研修プログラムは、自殺対策の専門家、小児科専門医、教育の専門家等の知識や経験をもとに開発しました。

ケース1：自殺のほめかし

- Aくん（高1）
- 作文で「自殺したい」



- 成績は普通→やや低、最近学校を休みがち
- 登校しても一人でボーっとして過ごしている
- 仲の良い友達はいない様子
- 明らかなじめはなさそう
- 容姿に無頓着で、最近特にその傾向が目立つ

N|+ ■ 独立行政法人教育政策実施機構

希死念慮のある児童生徒への適切なかかわり方（前編）

【動画時間】約35分

【内容】

1. 日本の子ども・若者の自殺の現状
2. ゲートキーパーとは
3. ケース・スタディ（1ケース）
 - ① 自殺のほめかし

繊細な話題に入るコツ

- ✓ 気になる言動（=SOS）を見付け、客観的に、かつ具体的に話す
- ✓ 「私（=先生であるあなた）が」心配している、ということを伝える

N|+ ■ 独立行政法人教育政策実施機構

希死念慮のある児童生徒への適切なかかわり方（後編）

【動画時間】約40分

【内容】

1. ケース・スタディ（3ケース）
 - ① 友人からの相談
 - ② 自傷行為
 - ③ アンケートの罣

調査研究へのご協力依頼

本研修プログラムは、開発・公開したばかりで、その有効性については検証段階にあります。

JSCPでは、研修プログラムの有効性および効果測定ツールに係る科学的な検証を目的に調査研究を行っており、協力者を募集しています。研修前後において全3回のアンケート調査に回答いただき、最終調査への回答者には研修のポイントをまとめた資料を進呈します。こども・若者の自殺対策に資する知見の創出に向け、ご協力をおねがいします。

調査イメージ

研修直前	研修	研修直後	研修3か月後
約10分	約40分×2本	約10分	約10分
			
アンケート回答	研修動画視聴	アンケート回答	アンケート回答

留意点

- 研究対象者は、日本の中学校・高等学校・中等教育学校で勤務するすべての教職員（職種不問）となり、その他の所属・職業の皆様は対象外となります。ご了承ください。
- アンケート調査はWebフォームを用いて行うため、初回にメールアドレスをご入力いただきますが、調査票および特典資料の配布以外の目的に使用することはありません。
- 本研究は、いのち支える自殺対策推進センターの研究倫理審査委員会の承認を得て実施しています。



いのち
支える